

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

広島県三次市

○学校名

三次市立君田中学校

○学校のURL

<http://www.kimita-j.hiroshima-c.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各1学級【合計】3学級

○児童生徒数

【全生徒数】41人（平成25年11月18日現在）
（内訳：1年生12人、2年生13人、3年生16人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「きみを愛し、心豊かで逞しい生徒の育成」

【人権に関する目標】

「生命尊重の精神を身につけ、自他の人権を尊重する生徒を育成する」

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】

自己効力感を高め、「思考力」「判断力」「表現力」を持った生徒の育成
～生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進を通して～

①人権が尊重される授業づくり

- 生徒指導の三機能を生かした授業
- 君田中学校「授業づくり」プランに基づく授業
- 協同学習（ペア学習、グループ学習）を取り入れた授業

②人権が尊重される関係づくり

- ピア・サポートによるアプローチ
- 小中一貫教育の推進
- 地域の方々とのふれあいを通して人権感覚を養うボランティア活動
- 互いの考えや思いを受け止め、相互理解する体験活動

③人権が尊重される環境づくり

- 人権意識を高める環境美化、掲示物
- 人権意識を高める図書館教育

3. 特色ある実践事例の内容

【人権が尊重される授業づくり】

協同学習・生徒指導の三機能

人権の視点

最初の自分

○個人での思考

- ・自分の考えと、考えた理由をもつ。
 - ・考えたことを書いてワークシートに表現する。
- <自己決定>



いろいろな意見が出る課題が設定されている。この段階では正解でなくてもいいんだ。自分なりに一生懸命考えて、意見を持つことが大切だ！

コミュニケーション活動

○ペア・グループでの思考

- ・個人思考で考えたことを持ち寄り、話し合う。
 - ・他者の思考を比較し、共通点と相違点を整理し、グループの結論をまとめる。
- <集団決定>
<共感><自己存在感>



みんな最後まで発表者の方を見て聞いてくれ、安心して発表できる。わからないことを聞けるし、自信のないことも本音で話し合える。

自分と違う意見が参考になる。友達はこんなことを考えていたんだ！

○全体での思考

- ・各グループで考えたことをホワイトボード等を書き、発表し、みんなと意見を交流する。
- <相互評価・集団決定>
<共感><自己存在感>



同じ課題なのにいろいろな意見がある。各グループの考えを出し合う中で「このグループの、この考えが参考になった」ことを伝え合う。

深まった自分

○個人での思考

- ・グループでの思考・全体での思考を踏まえ、友達の考えを取り入れ最初の個人の考えを修正する。
- <自己存在感>

自分の学びが仲間の役に立つ。
仲間の学びが自分の役に立つ。
↓
自分と仲間のために真剣に学ぶ

「自分を大切にし
他人を大切にし
共に生きる」
人権感覚を授業を通して学ぶ！

生徒指導の三機能を生かした授業づくりを行うとともに、授業の展開に協同学習を取り入れる。個人思考の場を設けて自分の考えを持たせ、ペアまたはグループで役割分担をすることによって一人一人に責任を持って学習に取り組ませている。

その中で、自分の考えを他者の考えと比較させたり、相互作用させたりして互いに学び合わせ、自己効力感を高め、自分の考えを深化させている。

そうした考えを全体場で発表させることにより表現力を養い、肯定的な相互評価を行うことで共感的人間関係を育てている。そして、再び個人思考で学習を振り返らせ、「思考力」「判断力」「表現力」を育成している。

【人権が尊重される関係づくり】



ピア・サポート

小中合同運動会

ボランティア活動

野外体験活動

思いやりのある学校風土の醸成に繋がることを目的として、ピア・サポートを取り入れ、子供たちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育てている。

小中一貫教育を推進し、小中合同運動会等の異年齢交流の行事では、中学生がリーダーシップを発揮し小学生をリードする場面を意図的に設定することで、責任感や自己効力感が養われ、望ましい人間関係を築きつつある。

生徒会執行部が中心となり、町内福祉施設での全校ボランティア活動や自分たちが育てた花を町内事業所に贈る等の地域貢献を行っている。

野外体験活動では共同生活を通して相互理解を深めている。また、職場体験等の活動の機会を生かすことを通して、他者とのかかわりの中で、温かい人間愛の精神を深め、これを身に付けさせている。

【人権が尊重される環境づくり】

生徒達の様子の掲示



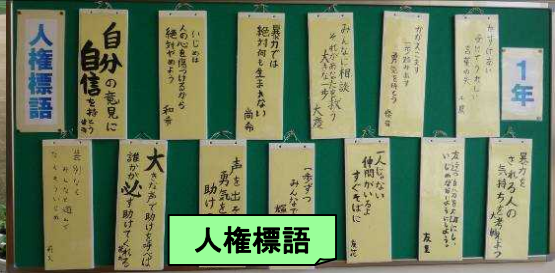
Reading Hall



一人一鉢



スマイルフラワー活動



人権標語

自分を大切にし、他人を大切にする人権教育の成立基盤としての教育・学習環境を整えている。お互いの活動を認め合い、成長を確認し、共感し合えるように、生徒たちの活動の様子を掲示したり、作品を展示したりするなどしている。また、学校図書館の読書機能を果たすとともに、生徒同士が互いにくつろいだ雰囲気の中で、語り合えるように2階のReading Hallを整備している。

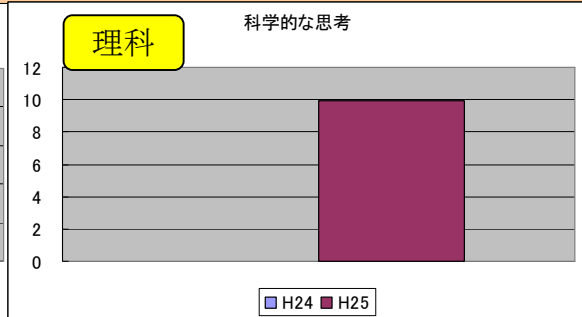
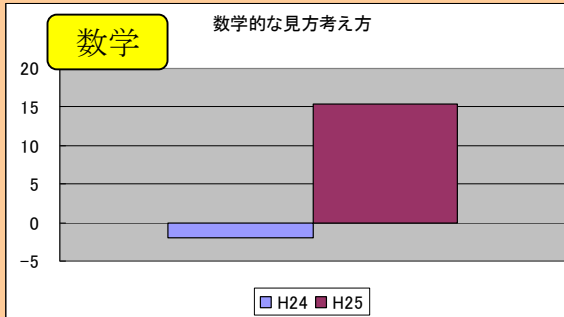
その他、生徒自身が花を育てるスマイルフラワー活動等により校内の環境美化に努め、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送り、自然を愛し、生命を尊重する豊かな心を育てている。さらに、道徳の時間と関連させて、全校生徒による人権標語の作成を行っている。

4. 実践事例の実績、実施による効果

広島県「基礎・基本」定着状況調査(教科の基礎的・基本的な学習内容の定着状況)の分析

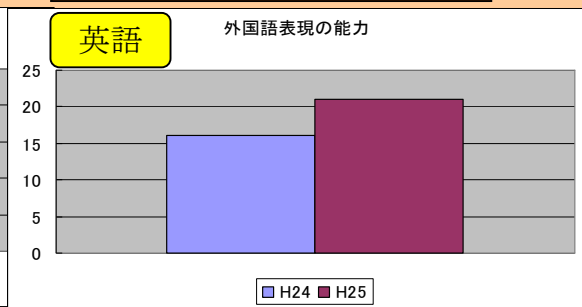
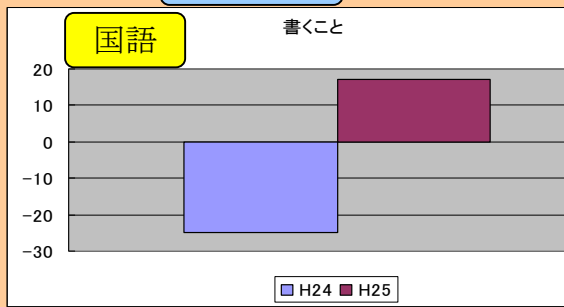
思考力

本校と県の平均通過率の差



表現力

本校と県の平均通過率の差



「思考力」においては、数学科で数学的な見方や考え方が高まってきており、理科の科学的な思考も県平均と比べ高い通過率である。

「表現力」においては、国語科の書くことが昨年度課題であったが今年度は向上しており、英語科の外国語表現の能力も昨年度同様高い通過率を保っている。

よって、授業改善等の取組により、「思考力」「表現力」ともに向上しているといえる。

広島県「基礎・基本」定着状況調査(生活と学習に関する意識・実態)の分析

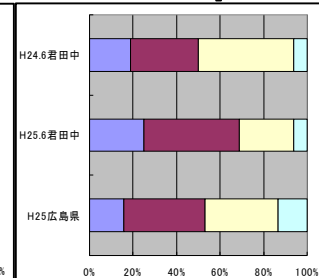
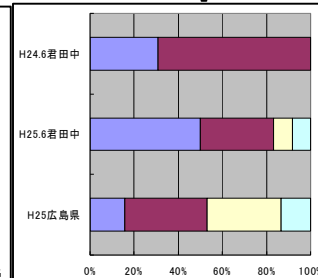
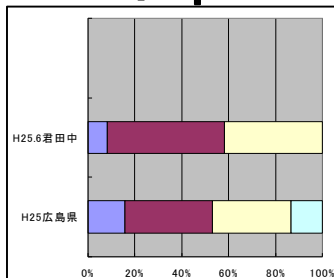
自己効力感

自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。

1年

2年

3年



■ よくあてはまる
■ ややあてはまる
■ あまりあてはまらない
■ まったくあてはまらない

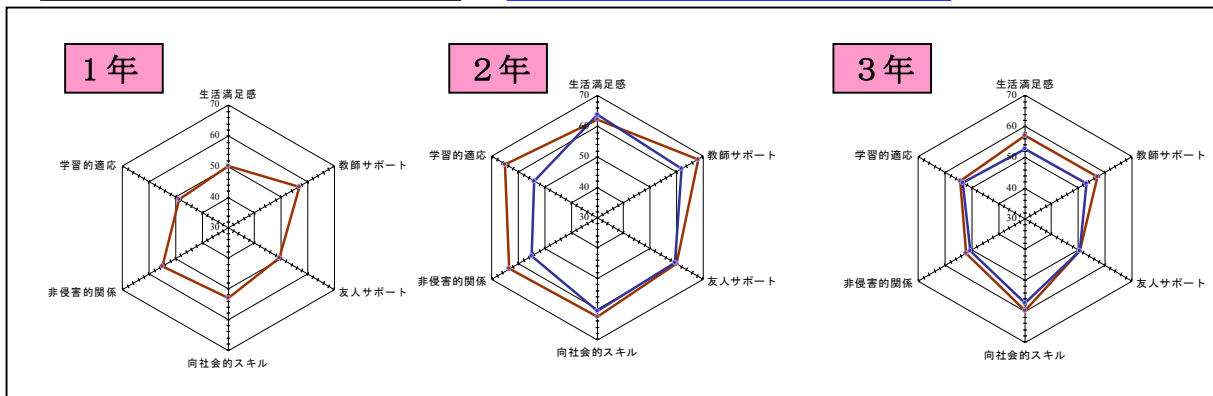
自己効力感 どの学年も肯定的評価が県平均を上回っており、2・3年生では、「よくあてはまる」の割合が高くなっている。ピア・サポートや小中合同行事等での異年齢交流、生徒指導の三機能を生かした授業づくりに取り組んできた成果と考える。自分のよさに気づき、仲間から認められていると考えている生徒が増え、他者との関わりの中で、自他を大切にしようとする感性が育ってきている。

ASSESSによる分析

「6領域学校適応感尺度」

適応次元のレーダーチャート

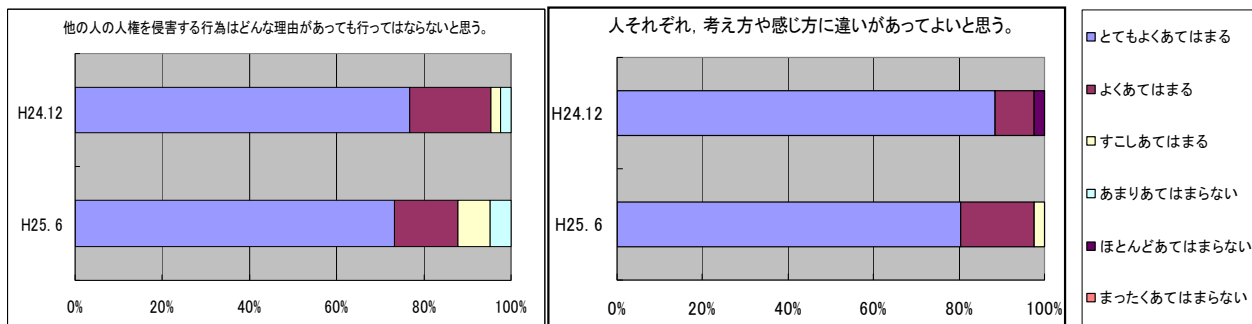
— H25.6月 — H24.9月



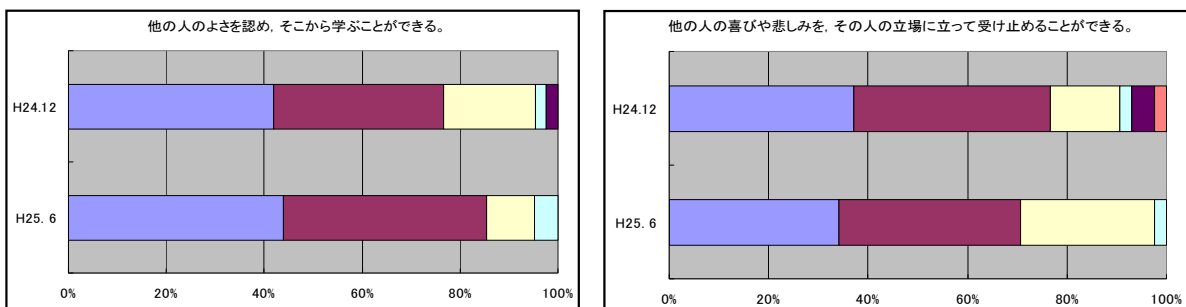
1年生は、中1ギャップによる学習的適応と友人サポートに課題があるものの他の領域が高いことから、学級内に支持的風土が形成されており小学校から同じ集団である強み（よさ）が活かされていることがわかる。2年生は、学級の状態が非常に安定しており学習や対人関係において良好であることがわかる。3年生は、教師サポートや生活満足感の領域において改善が見られ、対人的適応が良好になってきていることがわかる。全学年で対人的適応に対して要支援の生徒は見られない。要学習支援の生徒や生活満足度が低い生徒に対しては、個人面接、SCのカウンセリングを行っている。また、生徒情報を共有し、個別の指導計画に基づく研修とあわせて指導している。

平成25年度人権教育研究推進事業生徒アンケート

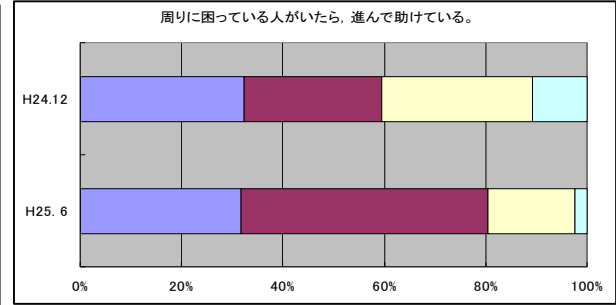
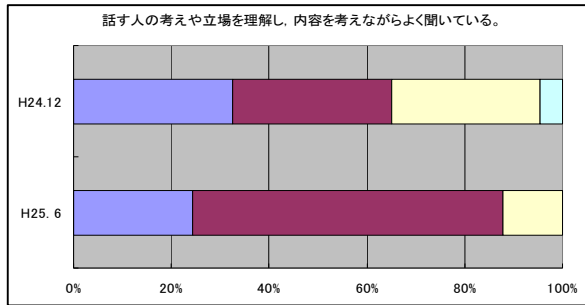
知識



感性



人権感覚



人権尊重の理念の理解と体得

一人一人の違いを受け入れて、お互いを大切にする意義を大部分の生徒が理解しており、自他の違いを認め、人の喜びや悲しみを共感的に受けとめることができない生徒が減ってきた。また、自分を大切にするとともに、人の気持ちや立場を尊重した行動をとることができる生徒が増えてきた。今後さらに、人権に関する知的理解と感性・人権感覚の両面から、人権尊重の理念についての正しい理解を深め、体得させていく。

5. 実践事例についての評価

視点1 人権が尊重される授業づくりによって、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」が向上するであろう。

成果 ・生徒指導の三機能や協同学習を取り入れた人権が尊重される授業づくりを進めたことで、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」が向上した。また、自分の考えを仲間に認められるという安心感から、相手にわかりやすく表現しようとする生徒や他の生徒と違う意見も受け入れながら自分の考えを話している生徒が多くなった。

課題 ・思考の場としての言語活動の充実を図り、協同学習において自分の意見を他の生徒の意見と練り合わせ、更に自分の考えを深化させるよう指導していく。

視点2 生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進によって、自己効力感が高まり、自他を大切にする心情が豊かになるであろう。

成果 ・生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進を通して、自分のよさに気付き仲間から認められていると感じている生徒が多い。自己効力感が高まり、自他を大切にする心情が豊かになっていると考えられる。

課題 ・今後も、生徒実態に応じたピア・サポートプログラムの実施や、日常生活での仲間づくりをすべての教育活動を通して継続していく。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

三次市立君田中学校

人権教育の視点から「協同学習・生徒指導」を進めてきている。人権が尊重される関係づくりのために、「ピアサポート」「小中合同運動会」「ボランティア活動」「野外体験活動」が実施されている。「第三次とりまとめ」で人権感覚を育成するために指摘した価値・態度的側面や技能的側面を育てるためには、この事例のような具体的な体験活動を活用することは効果的である。また、この事例で注目すべきは、人権教育の効果測定についての研究を積極的に進めている点である。生徒の「思考力」「表現力」の年次変化を県内の学校の平均値と比較し、「自己効力感」についての年次変化を測定して活用している。さらに、「6領域学校適応感尺度」を活用して、各学年で学級内に支持的風土が形成されてきたことを具体化に確認しようとしているところも参考になる。学校全体として組織的・効果的に人権教育を推進しようとする教職員の雰囲気がいっぱい溢れている学校の様子が伝わってくる。